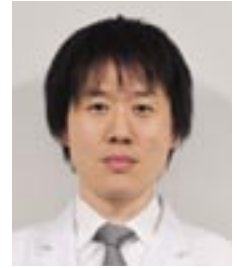


◎ 2015年度同門会奨励賞受賞

社会医療法人誠光会 草津総合病院 呼吸器外科 医長
滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科）非常勤講師

川口 庸（平成19年卒）



今回、同門会奨励賞をいただきましたことを感謝いたします。

ご評価していただいたのは、The Annals of Thoracic Surgeryに掲載された「Infected bronchogenic cyst treated with drainage followed by resection」という論文です。この症例では、縦隔にできた気管支嚢胞が感染を起こし、嚢胞内に膿が溜まり、嚢胞が腫大し、気管支や食道を圧排しておりました。そこでまず経食道的にドレナージを行い、嚢胞を縮小し、炎症を沈静化させてから、2期的に手術切除を行ったものです。当時、私は卒後6年目で、大学病院から出向したばかりで、主治医の立場で患者さんの診断・治療にあたるようになった初めての年でした。これまで経験したことのない病態に対して、様々な文献を調べ、滋賀医科大学呼吸器外科の先生方に助言をいただき、他科の先生と連携しながら、「この患者さん・この病態にとって一番よい治療法は何か」ということを徹底的に考え、治療を組み立てていきました。この思い出深い症例で論文作成を行い、「Your paper has been received and is accepted for publication in The Annals of Thoracic Surgery」というメールが届いた時、心から嬉しかったことを覚えています。

この、医師として一人歩きを始めた時期に経験した、学び、実践し、結果を考察し、論文として発信するというサイクルは、今でも身に沁みついているように感じます。

この論文を評価していただき、同門会奨励賞という名誉な賞をいただいたことに心から感謝申し上げます。また論文作成にあたりご指導いただきました先生方にも、書中をもってお礼申し上げます。